



コロナワクチン後のアナフィラキシーショック後の対応について

アナフィラキシーショックとは、何らかのアレルゲンに対し全身性のアレルギー反応が引き起こされ、急激な血圧低下や全身状態の悪化が出現した状態を指します。全国でコロナワクチン接種が進められる中で、ワクチン接種会場において、そのような症状に速やかに対応できる体制整備が求められています。この対応には、症状発現に速やかに気づき、早期に対応できることが重要となります。そこで、当院では先日、アナフィラキシーショックになった患者を想定し、訓練をいたしました。反省点として、「速やかにアドレナリンを洋服の上からでもいいのでためらわずに打つ！」ということができました。

咳
コホン大丈夫で
すか？シナリオが救急
外来への搬送
でしたが、
この時点で注
射してもよかつ
た

日本救急医学会から発出
されているフローチャートで
見直すこともできました
[20230614_o.pdf \(jaam.jp\)](https://www.jaam.jp/20230614_o.pdf)



コロナと共に

もう、コロナが何回目の流行かわからないくらいになりましたが、やっと天草地域も流行期が終わりました。それに伴い、面会を禁止から緩和といたしました。次の流行は寒くなって暖房器具を使うようになる時期でしょうか。お正月も会いたい人にあうために、ワクチンを打っておいたほうがいいかもしれません。

採用
試験

助産師・保健師の令和6年度の看護職員を募集しています。
療養介助員さんも募集しています。興味のある方は、ご連絡ください。

編集後記:(古賀):新年度が始まると、私は「3か月が勝負でその一年が決まる」と言い、そのあと、「盆が過ぎるとお正月」と言っています。いつも、笑われていますが・・・本当に年月が経過するのは早いです。ぼちぼち年賀状の手配をしなくてはいけなくなりました。そろそろイルカウォッチングに行きたいですね～。

